

第2次菊川市総合計画策定に伴う SWOT分析による戦略課題の検討

今後の計画づくりに向けて、社会情勢や市の動向把握要素を用いて、解決すべき課題や課題解決の方向性を検討します。この検討のために、主に民間企業の戦略分析に用いられている「SWOT分析手法」を活用します。

(1) SWOT分析について

組織の内部環境を「S（強み）」、「W（弱み）」の観点から、組織の外部環境を「O（機会：プラス要因・追い風）」、「T（脅威：マイナス要因・逆風）」の観点から整理し、組織の資源と課題を抽出・把握するための分析手法の1つです。

通常、次のような表を用いて分析を行い、事業・施策や政策の選択や集中といった「戦略」を検討・立案するために活用します。

	外部環境	機会（プラス要因・追い風） （Opportunity）	脅威（マイナス要因・逆風） （Threat）
内部環境			
市の強み （Strength）		【成長戦略】 強みによって機会をさらに活かす方向	【回避戦略】 強みを発揮して脅威を回避・克服する方向
市の弱み （Weakness）		【改善戦略】 機会を逃さないように弱みを改善する方向	【改革戦略】 最悪の事態を招かないように弱みを克服し改革する方向

①外部環境分析

外部環境（機会、脅威）の整理にあたっては、現在及び今後の社会情勢、経済情勢等に係る、次のような要因をふまえます。

社会経済環境	1) 経済的要因	4) 文化的要因
	2) 社会的要因	5) 制度的要因
	3) 技術的要因	

②内部環境分析

内部環境（強み、弱み）の整理にあたっては、次の4つの資源に着目して、該当する要素がないか検討します。

（行政）	1) 人的資源	3) 財務的資源
	2) 物的資源	4) 技術・情動的資源
（住民、企業など）	1) 人的資源	3) 財務的資源
	2) 物的資源	4) 技術・情動的資源

(2) SWOT分析結果 <※市民アンケート、意識調査等を基にした委託業者(ランドブレイン㈱)の素案>

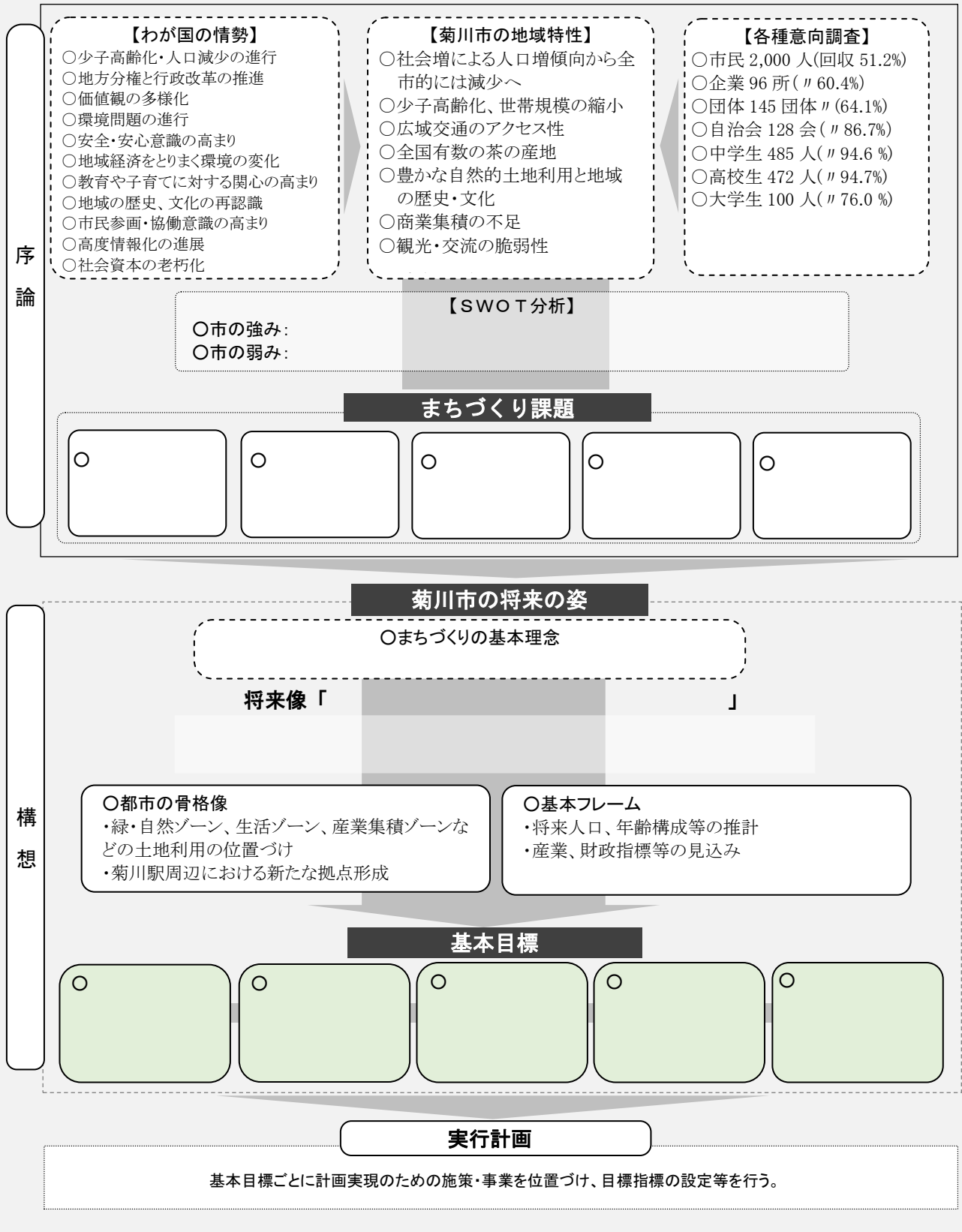
外部環境（機会、脅威）と内部環境（強み、弱み）の組み合わせから成る4つの領域【成長戦略】、【改善戦略】、【回避戦略】、【改革戦略】ごとに、戦略（解決すべき課題点や課題解決のためのとりくみの方向性）を示します。

■SWOT分析による今後の計画づくりに向けて、解決すべき課題や課題解決の方向性

		菊川市をとりまく外部環境		
		プラス要因	マイナス要因	
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 地方分権と行政改革の推進 ■ 価値観の多様化 ■ 安全・安心意識の高まり ■ 教育や子育てに対する関心の高まり ■ 地域の歴史、文化の再認識 ■ 市民参画・協働意識の高まり ■ 高度情報化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> □ 少子高齢化・人口減少の進行 □ 環境問題の進行 □ 地域経済をとりまく環境の変化 □ 社会資本の老朽化 	
菊川市の内部環境	強み	<ul style="list-style-type: none"> ● 市の魅力として「自然豊か」「茶」「交通利便性」があげられる（平成26年度 市民アンケート、企業・事業所意識調査） ● 多くの市民が「住みやすい」と評価（平成26年度 市民アンケート） ● 緑茶が名産であり、自然が豊かでコンパクトな土地利用が形成される ● 県下市部中においては高い出生、若い年齢構成 ● 人口動態における社会増傾向 ● 保育園の充実などによる子育て環境 ● 広域交通軸（東名高速、JR線等）が横断し、鉄道駅、ICを中心にした交通網が形成される 	<p style="text-align: center;">【成長戦略】 （強みによって機会をさらに活かす方向）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ● 自然資源、特産物の地域ブランドとしてのブラッシュアップ・PRや6次産業化などの展開 ■ ● 市民の「地域愛」の醸成や市民参加による、住み良いまちの環境維持 ■ ● 子育てや子どもに対して「やさしい」まちとなる取組の維持、継続 ■ ● 鉄道駅、ICといった広域交通拠点を中心にしたコンパクトな市街地形成 	<p style="text-align: center;">【回避戦略】 （強みで脅威を回避・克服する方向）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ ● 転入人口、若年齢層人口の定着による都市活力の維持 □ ● 残存する自然環境の保全と共生 □ ● お茶をはじめとした菊川市の特産品による地域独自ブランドの確立と収益性の確保 □ ● 居住や子育てに対する環境の優位性を維持
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比較的若い人口構成である一方、全市人口は減少期に突入、高齢者の単独化も進む ○ 低い若年世代の定住意向（平成26年度 中学生・高校生意識調査） ○ 事業所数の対人口比（県下市部22位）などにみる産業集積の低さ ○ 商業系指標の減少傾向 ○ 就業環境に関する不安（平成26年度 企業・事業所意識調査、大校生意識調査） ○ 財政力の低下（財政力指数が県下市部21位） ○ 65歳以上人口の増加や介護給付負担等の増大 	<p style="text-align: center;">【改善戦略】 （機会を逃さないように弱みを改善する方向）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ○ 生産活動と居住、自然環境のバランスに配慮した市街地形成 ■ ○ 若年世代に対する菊川市の住み良さ等のPR ■ ○ 住民主体による地域に身近なまちづくりの展開 ■ ○ 市民の見守りに基づく地域コミュニティ機能の充実（地域福祉の展開） 	<p style="text-align: center;">【改革戦略】 （最悪の事態を招かないように弱みを克服し改革する方向）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ ○ 暮らしに身近な（商店、各種生活サービス機能を有する）施設の確保 □ ○ 安心安全な地域生活環境形成 □ ○ 安定的な財源確保と効率的な福祉サービスの実践 □ ○ 少子・高齢社会に応じた公共施設ストックの適切な維持・管理及び整備の推進

(3)「基本構想」の骨子

位置付: 菊川市の今後のまちづくりの方向性を示し、各分野における個別計画・施策に対する上位計画となる
 期 間: 平成 29 年～37 年



(4) SWOT分析の作成依頼

SWOT分析については、現在、市民アンケートや総合計画策定に伴う意識調査を基に、委託業者であるランドブレイン(株)がまとめたものを素案としていますが、先に開催された総合計画審議会から「市民目線だけでなく、行政からの目線の分析も重要である」との意見があり、現在、企画政策課政策係でも市の強み、弱みを出し合い作成をしている状況です。

このことから、今回、行政目線でのSWOT分析を取りまとめたく、総合計画庁内策定部会の協力を経て作成していきたいと考えていますので、大変お忙しいところ誠に恐縮ですが、部会の委員を中心に、それぞれの所属課の職員の意見を取り入れながら次のとおり分析をお願いしたいと考えています。

作成方法： 市の内部環境（強み・弱み）、市をとりまく外部環境（プラス要因・マイナス要因）を掲げ、各戦略（方向性）を導いてください。
SWOT分析の考え方は（2）を参考にしてください。

提出方法： 「様式1」に分析結果を入力しデータにて提出願います。
データは、下記 UserData にあります。

◆菊川市 UserData/000 全庁共通/H27/第2次総合計画策定に伴うSWOT分析

作成したデータを上記フォルダ内の「提出用フォルダ」に課名を添えて提出願います。

提出期日： 平成27年6月12日（金）
※期間が短く申し訳ありませんがよろしく願います。

問い合わせ： 企画政策課 政策係 担当：大石輝幸
TEL 35-0900（内線1914）

(様式1)

SWOT分析結果 <〇〇〇〇課(案)>

外部環境（機会、脅威）と内部環境（強み、弱み）の組み合わせから成る4つの領域【成長戦略】、【改善戦略】、【回避戦略】、【改革戦略】ごとに、戦略（解決すべき課題点や課題解決のためのとりくみの方向性）を示します。

■SWOT分析による今後の計画づくりに向けて、解決すべき課題や課題解決の方向性

		菊川市をとりまく外部環境	
		プラス要因	マイナス要因
菊川市の内部環境	強み	【成長戦略】（強みによって機会をさらに活かす方向）	【回避戦略】（強みで脅威を回避・克服する方向）
	弱み	【改善戦略】（機会を逃さないように弱みを改善する方向）	【改革戦略】（最悪の事態を招かないように弱みを克服し改革する方向）